

# 豊橋祇園祭（吉田神社例祭の花火と神幸行列） の豊橋市無形民俗文化財への指定について

美術・文化財課

## ○豊橋祇園祭の内容と、指定理由

### 祭の歴史

- ・吉田城下の氏子町およびその周辺地域によって、数百年にわたり継承されてきた祭礼
- ・吉田神社はかつて「吉田天王社」と呼ばれていた。牛頭天王という疫病除けの神をまつる
- ・祭の起源は、疫病を鎮めるために平安時代の京都で起こった御霊会ごりょうえ
- ・16世紀中頃までには、城内の「上天王社」と城下の「下天王社」を往還する神輿渡御みこしとぎよが成立
- ・江戸時代は各町内や東海道を会場に実施。近郷の人々のほか吉田藩主も毎年見物した
- ・江戸時代後期に曲亭馬琴が随筆で、吉田の花火は「天下第一と称す」と記す
- ・東三河一円の祭礼に大きな影響を与えた（手筒、大筒、綱火つなび、立物花火たてももの、笹踊り、山車など）

### 現在の祭礼の概観

豊橋祇園祭は、吉田神社の例祭を中心として、毎年7月第3金曜日から日曜日にかけて3日間にわたり実施される祭礼である。この祭礼は、氏子八ヶ町（上传馬町、札木町、本町、萱町、指笠町、三浦町、西八町、関屋町）によって奉納される花火と、吉田神社から素盞鳴神社へ神輿が渡御する神幸行列によって構成される。

【初日】金曜日は宵祭と呼ばれる。日中から夕刻にかけて氏子八ヶ町による大筒や乱玉といった台物の練込み、18時頃から清祓いが執り行われた後、拝殿前で神前手筒が奉納される。それに続いて、手筒やようかん、大筒、乱玉など、境内西側の広場で種々の花火が町ごとに奉納（実施）される。

【2日目】前夜祭と呼ばれる土曜日は、昼頃から氏子八ヶ町がそれぞれの玉箱の練込みを始め、18時頃から神社北側の豊川河畔において、氏子自らの手で打上花火が奉納（実施）される。

【3日目】日曜日は例祭当日である。午前中から神事を執り行い、夕刻からは神輿を中心に様々な威儀物や華やかな趣向を凝らした意匠を伴う神幸行列が吉田神社を出発する。先頭から、獅子飾鉾、鼻高、獅子頭、威儀物、神輿、警固、神職などが行列を成し、それに頼朝と乳母、十騎、饅頭配り、笹踊りといった華やかな装束や踊りの行列が続く。このような特徴的な神幸行列は「頼朝行列」とも呼ばれ、吉田城下で長く親しまれてきたものである。

### 祭礼の特徴と価値

豊橋祇園祭の大きな特徴は、神輿を中心とする神幸行列と花火を中心とする祝祭的行事が一体となり、氏子町内を中心とした城下町の社会・空間に支えられながら形を変えつつ継承・展開してきた点にある。豊橋の都市史と地域文化を象徴する重要な祭礼である。

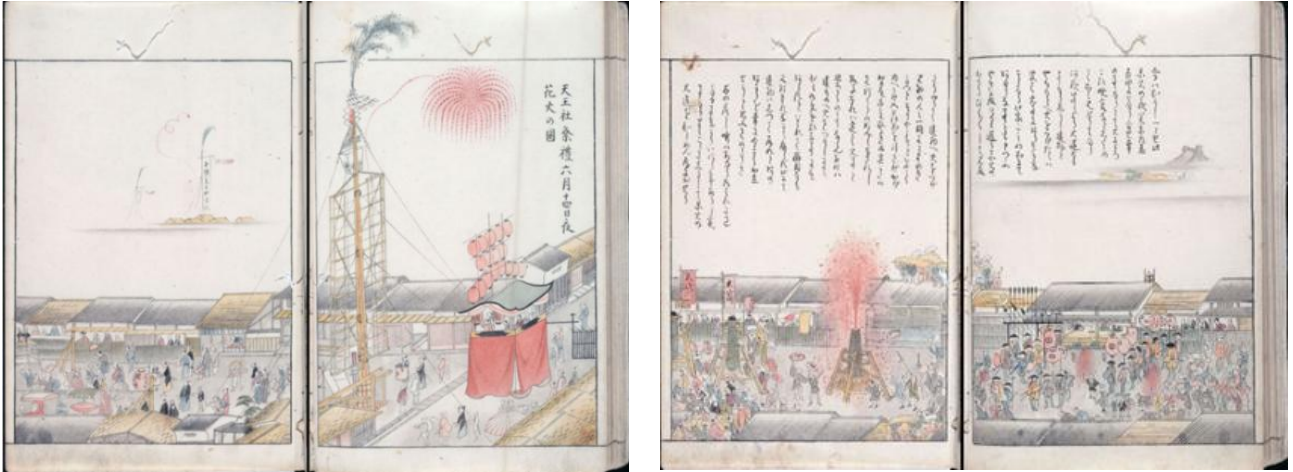
## ○指定とその後のスケジュール

- 6月24日（水） 教育委員会定例会にて指定議決⇒指定
- 7月12日（日） 13:30 から 吉田神社にて「指定奉告祭」
- 7月17日（金） 宵祭（手筒・大筒・乱玉）
- 7月18日（土） 前夜祭（打ち上げ）
- 7月19日（日） 例祭（本祭：神輿渡御・頼朝行列）

## ○本日出席の関係者

- 豊橋祇園祭奉賛会
- 会長 酒井数美
- 副会長 小林伸禎・河合成高
- 相談役 鈴木良昌
- 吉田神社 柵宜 水谷昌泰

○江戸時代の祭礼の様子（『三河国吉田名蹤綜録』：文化三年[1806]ごろ）



○現在の祭礼の様子（令和7年度）



獅子飾鉾



神輿渡御



頼朝



箆踊り



饅頭配